



日耳鼻医会 FAXニュース

平成27年3月9日発行 第224号

日本耳鼻咽喉科医会第40回臨床家フォーラム 「かごしまフォーラム2015」ご案内

ー広げよう耳鼻科診療の幅ー ともにスキルアップー

期日：7月19日(日)・20日(月・祝)

会場：鹿児島県市町村自治会館

レンブラントホテル鹿児島島

プログラム

7月19日(日)午後2時～一般演題4題

職員等スキルアップ講座 2講座

7月20日(月・祝)午前9時～

鹿児島大学教授による特別講演3題

従来職員を対象に行っていた聴力検査講習会はありません。代わりに職員・会員家族のスキルアップを目的に接遇やメイクに関する講座を設けました。職員等研修としてご利用下さい。

フォーラム案内冊子は4月末発送予定です。多数の参加をお待ちしております。なお、宿泊・観光ツアーは既にご案内可能ですので、☎099-257-7080 JTB総合提携店(株)全日本旅行センター(フォーラム担当：玉井、大迫、矢神)へお問い合わせ下さい。

アレルギー性鼻炎の舌下薬承認申請

鳥居薬品は減感作療法(アレルギー免疫療法)薬「TO-203」について1月26日厚生労働省に製造販売承認申請を行った。室内塵ダニアレルギー疾患を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)薬で舌下に含む新タイプの錠剤。低濃度・少量投与から始め、徐々に増量、濃度を高めていく。

同社は2011年1月にALK-Abell6 A/S(本社：デンマーク)より日本における独占的開発権・商業化権を取得し開発を進めて来た。国内で実施した約900例対象の第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験において本剤の投与による鼻炎症状の軽減が確認され、安全性に関して問題は認められなかったという。

同社では2014年12月に製造販売承認を取得した注射剤「TO-204」およびアレルギー検査薬「TO-205」に、今回舌下錠「TO-203」が加わることで、室内塵ダニアレルギー疾患治療の選択肢が広がり、患者のQOLの向上に貢献できることを期待している。



■スギ花粉症ワクチンを国内開発へ

アステラス製薬は、次世代のスギ花粉症の治療ワクチンの日本における独占的な開発・商業化権を米社から獲得した。リソソーム膜たん白質(LAMP)を活用するDNAワクチンで、現在の減感作療法よりも短い治療期間と数回の投与で根本的な治療が期待できる。日本での第1相臨床試験の実施準備を開始した。

同ワクチンはスギの主要なアレルゲンである「Cry j1」と「Cry j2」をコードする2つのDNAプラスミドを含有する。それぞれのアレルゲンはLAMPとの融合たん白質として発現するように設計され、免疫系反応をアレルギー性反応から非アレルギー性反応へと変える。これにより、安全かつ短期間での治療を可能とすることが見込まれる。

イミュノミックがジョンズ・ホプキンス大学からライセンス許諾を受けている「LAMP-vax」という技術プラットフォームを使用している。米国ではP1の開発段階。

またアステラスは、スギ花粉症以外のアレルギー疾患についても独占的な交渉権を留保している。

■鼓膜再生、治験実施へ

先端医療振興財団(神戸市)は2月12日、京都大病院や慶応大病院と共同で「鼓膜穿孔」の患者を、鼓膜の細胞を再生する療法で治療することを目指す治験を国内で初めて実施すると発表した。

治療では鼓膜の穿孔部分を、鼓膜の細胞を増殖させる物質(多血小板血漿(platelet-rich plasma:PRP))を含んだスポンジ状の微細な素材で塞いだ上、乾燥や感染を防御する働きのあるコーゲンシートで覆う。耳の穴から治療が出来、10～30分で終了、日帰り手術が可能。6月までに計20人の患者を募集。2017年末までに保険適用を目指す。財団が運営する先端医療センター病院の鼓膜再生担当部長は「手術痕が残らず、理想的な聴力の改善が見込める」と話す。問い合わせ先は先端医療センター病院地域医療連携窓口(TEL078-306-0889)

■改革断行の分野、3番目に「医療」

安倍首相が施政方針演説

安倍首相は2月12日、国会で施政方針演説を行い「戦後以来の大改革」に踏み出す姿勢を強く打ち出した。改革を断行する分野として、「医療」を「農政」「経済的市場」に続く3番目に挙げた。

医療分野の改革では患者申出療養(仮称)の創設を挙げ、「安全性、有効性が確立すれば、国民皆保険の下で保険適用していく」と説明。医療法人制度改革にも言及し「外部監査を導入するなど経営の透明化を進める」と強調。さらに「異なる機能を持つ複数の医療法人の連携を促す新たな仕組みを創設し、地域医療の充実に努める」

と述べた。

社会保障分野の充実策や制度改革では▽難病患者への医療費助成拡充▽認知症対策の強化▽国民健康保険への財政支援拡充と財政運営の都道府県移行▽介護保険料の伸び抑制、利用者負担軽減のための介護費用抑制—などを挙げた。

■民間保険「公的医療保険を補完しない」

日医総研はこのほど、民間医療保険・がん保険の現状を分析したワーキングペーパー(WP)を発表した。現行の民間医療保険・がん保険の意義を認める一方、低所得者の加入が困難である点などを挙げて「公的医療保険を補完するわけではない」と指摘した。WPは、民間保険は医療費を補完するというより、休業時の生活保障や諸経費を補うものとして意義が見出されているとしたが、一方、現在の民間医療保険・がん保険は低所得者の加入が困難な点を挙げて公的医療保険を補完しないと強調。「民間保険に加入していれば自己負担の一部が補われるため、未加入の場合と比較して受診抑制的なものは働きにくく、結果的に受けた医療に格差が生じたということはありません」としながら、公的医療保険の役割を軽率に民間に委ねてしまうような方向性には否定的な見方を示した。このほか、民間保険会社に節度ある広告宣伝を求める一方、厚生労働省には公的医療保険への理解を促す取り組みを要請した。

協和発酵キリン株式会社
http://www.kyowa-kirin.co.jp

Commitment to Life

グローバル・スペシャリティファーマ。抗体医薬をリードする、協和発酵キリンです。

KYOWA KIRIN

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
HP: http://www.jenti.or.jp E-mail:jimu@jenti.or.jp
当会への要望・意見・相談をお寄せ下さい